

2025

6/26  
木

## 第1部 演題

成人先天性心疾患に対する  
カテーテル治療 ～無症状でも治療が必要?～

## 第2部 演題

## 胸部大動脈疾患治療の up to date

## 第1部 講師

循環器内科  
教授 金澤 英明 医師

「成人先天性心疾患」という病名を耳にしたことがありますでしょうか?文字通り“先天性”ですから心臓に生まれつきの異常がある疾患ですが、“成人”とつくことで、少し不思議に思われるかもしれません。実際には、15歳や18歳を過ぎて成人となった、先天性心疾患を抱える患者さんを指します。この中には、小児期に治療を受け成人となった方や、大人になって初めて先天性心疾患と診断された方が含まれます。中でも頻度が高いのは、ファロー四徴症や心房中隔欠損症です。特に心房中隔欠損症は、高齢者になってから診断されることも多く、不整脈や生活習慣病を併発するケースが増えています。今回の市民公開講座では、「成人先天性心疾患」に関する最新の知見と、体への負担が少ない「低侵襲なカテーテル治療」について、分かりやすく解説します。新しい視点を知り、ご自身やご家族の健康について考えるきっかけとなれば幸いです。

## 第2部 講師

心臓血管外科  
准教授 藤吉 俊毅 医師

胸部大動脈に対する治療は、診断技術の向上、外科治療における医療機器の開発・改良、技術的進歩、そして経験の蓄積により、治療成績が著しく向上しています。特に日本における治療成績の向上は顕著であり、急性大動脈解離 Stanford type A の手術死亡率は10%以下に抑えられており、これは海外の死亡率の約半分から1/3に相当し、この良好な成績は海外からも注目を集めています。一方で、胸部大動脈疾患の治療は待機手術であってもその死亡率は約5%であり、依然として高リスクな手術であることに変わりはありません。本稿では、このような胸部大動脈疾患治療の現状を整理し、今後の展望について解説します。

日時 2025年6月26日(木) 開場 16:30 開演 17:00 ~ 閉演 18:30(予定)

会場 東京医科大学病院 本館9階 臨床講堂 (最寄駅:丸ノ内線 西新宿駅)

申込 事前の申込は不要。当日は会場に直接お越しください。

※尚、座席数に限りがございます(360席)。満席の場合は入場をお断りする場合がございますので予めご了承ください。